

再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ○ 再評価後 (年) ● その他 (変化)						
1 事業概要	事業名	こやがわ 木屋川ダム再開発事業						
	事業場所	とよたちょう おおかわち 下関市豊田町大字大河内						
	事業主体	山口県						
	事業期間	《 前回評価 平成 29 年時 》 平成 21 年度 ~ 令和 21 年度 《 令和 16 年度 》 (西暦 2009 年度 ~ 西暦 2039 年度 《 西暦 2034 年度 》)						
	総事業費 (内用地補償費)	《 40,000 百万円 》 40,000 百万円 (7,270 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	1,397 百万円 (0 百万円)	進捗率 (用地補償費)	3 % (0 %)		
	事業目的	<p>木屋川は、その源を長門市俵山の草添山に発し、既設の木屋川ダムの貯水池である豊田湖を経て、豊田盆地、田部盆地を大きく蛇行し、稲見川、日野川、田部川、貞恒川等と合流しながら、下関市小月の周防灘に注ぐ、流域面積299.8 km²、幹川流路延長43.7 kmの二級河川である。</p> <p>木屋川流域では、昭和30年に既設ダムが完成し、下流沿川地域の浸水被害の軽減に一定の役割を担っているが、昭和34年の出水以降、たびたび下流域で浸水被害が発生している。近年では、日野川合流点から下流において戦後最大規模の出水となった平成22年の7月豪雨において、甚大な浸水被害が発生した。また、平成6年や14年には、濁水被害が発生している。</p> <p>これらのことから、木屋川の「浸水被害の軽減」、「流水の正常な機能の維持」を目的として、既設の木屋川ダムを嵩上げる。</p>						
	事業内容	<p>《ダム嵩上げ》形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：51m (41m) 堤 頂 長：237m (174.3m) 総貯水容量：38,350千m³ (21,750千m³) ※ () は既設ダム 集水面積：84.1km²</p>						
事業効果	<p>(1) 浸水被害の軽減 再開発後の木屋川ダムの洪水調節により、治水基準点（大野地点）における1/70確率規模の洪水1,890m³/sを1,590m³/sに低減するなど、ダム下流域の浸水被害の軽減を図る。</p> <p>(2) 流水の正常な機能の維持 ダム下流の既得用水の安定取水、動植物の生息・生育環境の保全、河川景観の保持等に必要流量として、利水基準点（大野地点）において概ね1m³/sを確保する。</p>							
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	<p>浸水想定区域に関係する人口、世帯数は前回評価時と比べ、同水準であるため、治水対策の必要性は依然として高い。 【浸水想定区域に関する状況変化（住民基本台帳）】 《豊田地区ほか》 ○人口：0.95倍 (15,857/16,619人) <R2/H29> ○世帯数：1.00倍 (7,459/7,448世帯) <R2/H29> 《参考：県全体》 ○人口：0.97倍 (1,345/1,384千人) <R2/H29> ○世帯数：1.00倍 (600/599千世帯) <R2/H29></p>				中項目評価	大項目評価
		関係市町及び地元の意向	<p>当事業は、学識経験者、地域住民代表者、河川利用者の代表者、関係地方公共団体の長から構成される「木屋川水系川づくり検討委員会」で了承されている。 下関市及び長門市より、当事業の推進について要望書が提出されている。水没地区の関係者で構成されるダム事業対策協議会より、当事業の推進について同意をいただいている。 当該対策協議会と定期的な意見交換を行いながら事業を進めている。 これまでの度重なる浸水被害や濁水被害を受け、当事業に対する地域住民からの要望は強い。</p>				中項目評価	大項目評価

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H29)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：R2)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>8,613</td> <td>11,467</td> <td>11,467</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>167</td> <td>183</td> <td>183</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>14,589</td> <td>13,430</td> <td>13,430</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>7,218</td> <td>8,278</td> <td>7,893</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>30,587</td> <td>33,358</td> <td>32,973</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>23,935</td> <td>25,514</td> <td>23,792</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>197</td> <td>162</td> <td>162</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>24,132</td> <td>25,676</td> <td>23,954</td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>1.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】 「治水経済調査マニュアル(案)」令和2年4月 国土交通省水管理・国土保全局 ①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失及び応急対応にかかる費用</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：H29)	今回(再々評価) (基準年：R2)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	8,613	11,467	11,467		②農作物被害軽減便益	167	183	183		③公共土木施設等被害軽減便益	14,589	13,430	13,430		④その他の便益	7,218	8,278	7,893		総便益	30,587	33,358	32,973		費用 (C)	①事業費	23,935	25,514	23,792		②維持管理費	197	162	162		総費用	24,132	25,676	23,954		費用便益比(B/C)		1.3	1.3	1.4		大項目評価 A ・ B ・ C
		区分	主な項目			前回 (基準年：H29)	今回(再々評価) (基準年：R2)			備考																																																			
	全体事業			全体事業	残事業																																																								
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	8,613	11,467	11,467																																																								
②農作物被害軽減便益		167	183	183																																																									
③公共土木施設等被害軽減便益		14,589	13,430	13,430																																																									
④その他の便益		7,218	8,278	7,893																																																									
総便益		30,587	33,358	32,973																																																									
費用 (C)	①事業費	23,935	25,514	23,792																																																									
	②維持管理費	197	162	162																																																									
	総費用	24,132	25,676	23,954																																																									
費用便益比(B/C)		1.3	1.3	1.4																																																									
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>令和2年3月に環境影響評価法に基づく環境影響評価準備書を公告し、現在、環境影響評価の手続きを進めているところである。 その後、地形測量や詳細設計等を進め、計画的に事業進捗を図り、令和21年度に事業を完了させる。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input checked="" type="radio"/> 無</p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無 概略設計等が完了し、具体的な施工計画を基に事業工程を再精査した結果、付替道路の施工にさらに5年必要となることとなり、現在設定している事業期間内での事業完了が困難であることから、事業期間を5年間延長する。</p>	大項目評価 A ・ B ・ C																																																										
	(4) コスト削減の可能性	<p>コスト削減 今後、詳細設計を進める中で、新技術・新工法を活用する等、コスト削減策を検討していく。</p> <p>代替案 ダム事業の検証において、治水と利水の目的別に、コスト、実現性等の観点から、ダムとダム以外との代替案の比較・検討を行い、総合的に評価を行った結果、「木屋川ダム嵩上げ+河川改修案」である現計画案が最適であることを確認している。</p>	<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	a b	A		・		B		・		C																																														
中項目評価	大項目評価																																																												
a b	A																																																												
	・																																																												
	B																																																												
	・																																																												
	C																																																												
3 環境	配慮事項	<p>環境影響評価の結果を踏まえ、工事期間中及びダム供用後において、必要な環境保全措置等を行い、本事業による環境への影響の回避または低減を図る。(選択取水設備による水質・水温に配慮した放流、低騒音・低振動型建設機械の採用による猛禽類への配慮、植物の移植等)</p>																																																											
4 対応方針	総合評価	<p>● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p>																																																											
	評価理由	<p>浸水被害の軽減や流水の正常な機能の維持を図るため、事業継続が妥当と判断する。</p>																																																											
	備考																																																												

位置図



長門市 ▲ 草添山

豊田湖

稲見川

木屋川ダム

下関市

豊田盆地

日野川

美祢市

歌野川ダム(利)

湯の原ダム(利)

田部盆地

田部川

大野地点

貞恒川

内日ダム(利)

凡 例	
	建設中ダム
	既設ダム
	治水・利水基準点
	集水区域
	貯水池
	洪水氾濫防止区域
	不特定用水補給区域
	流域界

0 2.5 5km

周防灘

JR 山陽新幹線

JR 山陽本線

国道2号

国道190号

中国自動車道

山陽自動車道

国道491号

国道435号

JR 兼杯線

国道316号